

# SDGs 意識・行動変容調査

## —学習効果によるコンピテンシーの変化—（その2）

白鳥 和彦

Musashino University Creating Happiness Incubation 研究員 武蔵野大学 大学院環境学研究科 教授

### 要約

昨年度に続き学生の SDGs 意識変容調査を行った。都内私立大学の学生を対象として、昨年同様に SDGs に関する 5 つのコンピテンシーのレベル（想像力、情報力、学習力、行動力、達成力）が評価できる Web アンケートシステムを用い、また、Web アンケート後に、それとは別の定性的な意見集約を、前期初め、後期末の 2 回の調査を行い、この間における変化を比較分析した。環境経営科目の学習により SDGs の学習力、情報力が向上していることは昨年同様であった。一方で、行動力が向上していないことも変化の無い傾向であり、コロナ禍の影響が続いているためと思われる。SDGs 意識が向上した理由およびさらに向上させるために、授業など身近なことを通したものが良いとの意見が多く、SDGs に特化した授業・学習の重要性が高いことが判った。

### 1. はじめに

#### （1）背景

ミレニアル世代や Z 世代の SDGs に対する認知度は高い一方、それら世代があらゆる環境・社会問題に意識的であると必ずしも言えない状況であるなか、これからの社会を担う若者世代が SDGs を知り、SDGs を意識した行動を取るために、学校での授業をはじめとして、教育機関の学習が果たす役割は大きい。昨年度は、学生の SDGs への関与度と意識・行動の変容について、当学科および都内私立大学 2 校の学生を対象として行った。前期末/後期初めに 1 回目、後期末に 2 回目の調査を行い、この間における変化を比較分析した。2 回目の調査では、想像力、情報力、学習力が、いずれの大学でも向上していた。また、行動力や達成力については、3 校とも多くの学生で向上が小さかった。

これら昨年度の調査から得られた結果は、環境や社会問題に関する学習の度



























